

# SDGs 未来都市等進捗評価シート

石川県白山市









2019年8月

SDGs 未来都市計画名

白山市SDGs 未来都市計画

## 1. 全体計画

計画タイトル	白山市SDGs未来都市計画
2030年のあるべき姿	白山の歴史・文化と豊かな自然環境の恩恵を、全ての市民や組織が実感し、白山手取川ジオパーク及び白山ユネスコエコパークの理念に基づいて、山間部において経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を白山市全体に還元するサイクルを目指す。

2030年の あるべき姿の 実現に向けた 優先的なゴール	経済			社会			環境		
	ゴール4 ターゲット4.4 ゴール5 ターゲット5.b ゴール8 ターゲット8.2, 8.5	  	ゴール4 ゴール5 ゴール11	ターゲット4.3, 4.7 ターゲット5.C ターゲット11.a	  	ゴール13 ゴール15	ターゲット13.1 ターゲット15.2, 15.4	 	

優先的なゴール、 ターゲットに関する KPI	No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	「白山ソサエティ」への進出・参画企業数【8.2, 8.5】	2018年7月	0 社	2030年	50 社	昨年度はまず安定的・継続的に取り組みを推進するため3つの連携協定を締結した。現在、本市の強力なステークホルダーであり、連携協定を締結した金沢工業大学等と、企業を山間部にどう呼び込むか、協議を重ねている。
2	「白山ソサエティ」進出・参画企業数が雇用または事業を委託する白山市在住の女性の人数【4.4, 5.b】	2018年7月	0 社	2030年	500 人	企業を山間部にどう呼び込むか、協議中であり、まだ雇用等できる状況ではない。	
3	子供、女性、高齢者、障害者、介護者等が自治運営に参画し、企業と社会課題を解決するソリューション件数【4.3, 4.7】	2018年7月	0 件	2020年	20 件	地域の方が自治運営に積極的に参画する機運の醸成を図っている段階である。	
4	「白山ソサエティ」における子育て支援事業の利用件数【5.c, 11.a】	2018年7月	0 件	2030年	50 件	子育て環境の充実と仕事の両立を図る具体的な事業内容について検討段階である。	
5	ITやAI、ロボット技術を活用した生態系の保全活動の市民参画数【15.4】	2017年1～12月	0 人	2030年	100 人	具体的な方策については、金沢工業大学等と協議中である。	
6	鳥獣による農作物被害額【15.4】	2017年1～12月	412 万円	2030年	50 万円	連携協定を締結した金沢工業大学等とIT等を活用した被害対策について協議中である。	
7	収集したデータ活用による自然災害未然防止件数【13.1, 15.2】	2018年7月	0 件	2030年	10 件	今年度より地方創生推進交付金を活用し、水環境のデータを収集する環境整備を進めている。	

## 1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 これまで「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「白山市教育振興基本計画改定版」、「第2次白山市スポーツ推進計画」に反映させ、今後策定予定の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「白山市都市計画マスタープラン」などの計画にも反映させる予定。今後計画に基づいた具体的なSDGsの取組みを推進していく。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ 全庁横断的かつ効果的に推進するため市長を本部長とする「白山市SDGs推進本部」を設置した。外部有識者からなるアドバイザーボードの委員からの助言、意見交換会を実施、また、各地区市民を対象に開催している「まちづくり会議」において市長自らがSDGsの推進について、市民に呼びかけている。</p>	<p>■今年3月に「白山市SDGs推進デー」と称し、市民にSDGsとジオパークに理解を深めてもらうためのイベント、今年6月に白山青年会議所との共催でお笑いによるSDGs普及啓発イベントを開催した。その他金沢青年会議所や国連大学サステイナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティングユニットが開催するシンポジウムで本市の取組みを広く紹介している。</p> <p>また、小学校の授業に吉本興業の石川県住みます芸人をSDGs推進大使に委嘱するとともに、外部講師として派遣し、次世代を担う子供たちにお笑いを通してSDGsを知ってもらえるよう市内小学生を対象に取組みを進めている。</p>	<p>・鳥獣被害は全国的に懸念される課題であり、その低減に資する取組みは非常に期待されるものであり、次年度は是非具体的な取組みを実施し、効果を検証していただきたい。</p> <p>・次年度計画では、中長期的な持続性を見据えた取組みを記載することを期待する。</p> <p>・全体計画として掲げたKPIを達成するための、具体的な事業が記述されていないため、KPI達成のための取組を推進されるとともに、その取組について明確にしていきたい。</p> <p>・普及事業は、予算がある場合のみの一過性となりがちである事を踏まえ、中長期的な体制についてどのように考えているのか記載いただきたい。特に、この計画の要となる「白山ソサエティ」については、SDGsの多様な分野での主導的役割を担うことを期待するとともに、役割、体制を明確にしていきたい。</p> <p>・民間企業、大学との連携は重要であるが、白山市の明確なビジョンを示すことを期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■様々なステークホルダーと協力して事業を進めていくために次のとおり連携協定を締結</p> <p>H30.11.5 情報通信技術を活用し、社会課題の解決や人材の育成を目的に、金沢工業大学とNTTドコモ北陸支社と「持続可能な開発目標（SDGs）における5G・ICTの利活用推進に関する連携協定」を締結</p> <p>H31.3.13 SDGs、ジオパーク・エコパーク、地域産業の立地、地域振興・まちづくり等について連携及び協力を行っていくため、東京大学地域未来社会連携研究機構と連携協定を締結</p> <p>H31.3.20 SDGsの市民への普及啓発やSDGs達成に向けた連携して取り組むために、白山青年会議所と「持続可能な開発目標（SDGs）における達成推進に関する連携協定」を締結</p> <p>また、金沢大学と東京大学地域未来社会連携研究機構が山間部の白峰地区にSDGs等の研究拠点施設を設置し、本市と連携してSDGsを推進することとしている。</p>	<p>■本市のSDGs未来都市計画は、人口減少や少子高齢化が急速に進む本市山間部において、産学官民が連携し、5G・ICTといった情報通信技術の利活用により社会課題の解決を探るほか、地域の資源を保全・活用しながら、経済の活性化させ、人や企業を呼び寄せる仕組みをつくり、その成果を白山市全体に還元するサイクルを確立を目指すものである。</p> <p>本計画が実現されることで、山間部の集落機能が保たれ、農地・森林の適切な維持管理を通じて、平野部の災害防止や本市のみならず多くの石川県民の水源の保全にもつながり、山間部の過疎地域が果たしている多面的・公益的機能を維持することができる。また、本市が併せ持つ山間部と平野部が共生する互惠関係を構築し、山間部の地域振興に貢献する。</p>	

1. 全体計画

自治体SDGsの推進に資する取組の2020年のKPI	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2018年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)	
	白山ソサエティの創出	4.4 8.2	「白山ソサエティ」への進出・参画企業数	2017年度 0社	0社	2020年 10社		0%	ゼロからのスタートであり、昨年度はほぼ予算がなかったことから、ステークホルダーとの協力関係の構築と普及啓発を主として取り組みを推進し、今年度より地方創生推進交付金を活用し、現在、本市の強力なステークホルダーであり、連携協定を締結した金沢工業大学等と、企業を山間部にどう呼び込むか、協議を重ねている。
	産学官民の共創	4.3	子供、女性、高齢者、障害者、介護者等が自治運営に参画し、企業等と社会課題に取り組む件数	2017年度 0件	0件	2020年 10件		0%	地域の方が自治運営に積極的に参画する機運の醸成を図っている段階である。
	女性の社会進出の礎	4.4 5.b 8.5	データ活用学習の女性の受講人数	2017年度 0人	1人	2020年 50人		2%	まずは女性に特定せずに、データ学習に興味を持ってもらうことから進めている。